

住信為替ニュース

THE SUMITOMO TRUST & BANKING CO., LTD FX NEWS

第2102号 2012年02月20日（月曜日）

《 striking distances 》

ドル・円、ユーロ・円などが先週末までに「重要なレベルへの striking distance」に到達した後を受けて、「どういう形でレベルに到達し、その後どういう展開を示すか」に関心を集めたい週です。

具体的に言えば、ドル・円は先週末までに79円台の後半に達しており、今週は「80円が試せるか、試したとして抜けるか、抜けたらどの程度までさらに円安に行けるか、それとも一時的にも反落するのか、そしてその後は？」が重要ですし、同じ意味でユーロ・円は105円のレベルが注目ポイントになる。

またこれらの水準を円が円安方向に抜けてくると、東京株式市場の日経平均の1万円乗せも「striking distance」ゾーンに入る可能性が出てきて、特にドル・円の80円台、日経平均の1万円の水準回復はマスコミでも大きく取り上げられるだろうから、それによって日本の市場を取り巻く環境認識、経済見通しへの波及も予想した方が良さそうだ。

もっとも一直線にそれらのレベル抜けが実現し、日本の市場を取り巻く環境が変わるかどうかは分からない。ドル・円の80円方向への歩みはかなり緩やかなものであり、そういう意味では「過熱感はない」と言えるが、肝心のドルの強さに関しては「どこを押しても大丈夫」という状況ではまだない。

世界に供給されまくっているという意味では、ドルは何時でも反落する懸念のある通貨だと言える。ユーロも「いつでも反落する危険性がある」という意味では、同じ事だ。ギリシャの件に関しては先週書いたのであまり触れないが、事態は一步一步前進しているようにいて、「欧州諸国のギリシャに対する不信感」はむしろ強まっている。

今週は早々にユーロ圏やEUの財務相会合などが開かれて、ギリシャに対する次の融資（13兆円相当）をどうするか議論が詰められるが、「つなぎ融資」のアイデアも出ている。それは4月に総選挙を控えているギリシャに、いまの段階で「EUとしてフルコミットは出来ない」という意志表示になるのだが、それにはまたギリシャの国民が反発するだろう。

「約束したこともしないかもしれない」というドイツやフランスの対ギリシャ不信は、同国が現在の経済の落ち込みの中で予想通りの税収を上げることが出来ず再びEUの融資を頼らざるを得ない状況では、「どんなに進展してもギリシャへの不安は、よってユーロへの不安は残る」ということだ。

しかしそれが「常なる状態」になることでマーケットにおける材料としての重要性は落

ちる。今はその状況なのだが、そういう意味ではユーロ・円が一段とユーロ高に動く可能性は十分にあると言える。そういう意味では、オージー・円、ニュージー・円などもかなり円安に動いてきている中で、「円の自律反騰」があってもおかしくない状況だが、筆者は今週中にはドルは80円を、ユーロは105円のレベルを超えて円安が進んでもおかしくない状況はある、と観ている。

円安は日銀の新たな金融政策スタンスを受けてもいるが、日本の貿易収支の赤字化、日本の財政への将来的な不安を背景としていると思う。よってどのくらいのスピードで進むのか、またどのくらいの“波”を作りながら進行するのかは無論分からないが、今後じわじわと進む事態だと考える。

日本の株式市場はこうした環境変化を、やや過熱気味に歓迎している。二部市場の指数は、既に「24日間の連騰」となっているし、日経平均はこのところの「8000円台での低迷」が常だった状況からの脱却が顕著で、これには「足が速すぎないか」との見方も出来る。先週は一日で100円以上日経平均が上げる日もあり、「久しぶりに大きく上げた」という印象も振りまいた。しかしPBRなど指標的に見れば、まだ日本の株式市場は買われてもおかしくない状況にはある。為替市場の環境変化もそれを後押ししている。

《 difficult to control nation' will 》

今週は、週初はやはりヨーロッパでの一連のギリシャ関係の会合が注目を集めるでしょう。既に書いたようにギリシャを巡る会議は、一筋縄ではいきそうもない。今のギリシャの国内情勢から見て、「総選挙後のギリシャ」をどのように想定するのかは難しい問題だ。EUは財政権限を集める努力をしているが、国家という存在が残る限り、その国家の行く先を決める最終的な権限は国民が握っている。民主主義国家であり続ける限りそうだ。政府がどんな約束をしても、その政府を構成している政党や政治家を国民が支持せず、別の政党や政治家を選べば、その約束は反故になる危険性がある。

ドイツやイギリスなど各国が、フランスの今年春の大統領選挙に重大な関心を持っているのもそういう背景がある。メルケル・ドイツ首相のサルコジ大統領（同時に次期大統領の候補）への肩入れは、周囲で見えても「大丈夫だろうか」「かえってフランス国民の反感を買ってしまうのではないか」とも思えるものだ。しかしフランスの将来を「サルコジに再び任せるのか、それともオランダに託すのか」は、フランス国民の選択である。社会党のオランダが今の支持率通りフランスの次期大統領になれば、「メルランド」の状況にはなかなかならないだろうから、欧州の情勢はややこしい事になる。

今週の主な予定は以下の通りです。

2月20日（月）

1月貿易統計

1月全国百貨店売上高

1月コンビニエンスストア売上高

	ユーロ圏財務相会合 休場／米国・インド・ブラジル
2月21日（火）	12月全産業活動指数 EU財務相理事会 米1月シカゴ連銀全米活動指数 休場／ブラジル
2月22日（水）	1月チェーンストア売上高 米1月中古住宅販売件数
2月23日（木）	米新規失業保険申請件数 米12月FHFA住宅価格指数
2月24日（金）	米1月新築住宅販売件数

《 have a nice week 》

週末はいかがでしたか。全国的に寒い週末のようでしたが、私は仕事の関係で旭川のホテルにてこの文章を書いている、それはそれは外は寒い。昨日は日中でもマイナス5度、6度で、それが一番温度の高いレベル。夜になるとマイナス19度とかになる。今年はあまりに寒いので、タクシーの運転手さんが「氷柱（つらら）が出来ない」と言っていました。日中の温度が零度に接近すると雪が溶ける。そしてその溶けた水が氷柱になる。ところが今年は日中でもそこまで暖かく（？）ならないから、よって氷柱も出来ないということらしい。旭川の人達も「今年は寒い」という。

雪も地元の人でも驚くほど多い。街を歩いても、雪かきによる雪の片寄せもあったからでしょう。人間の背丈よりも雪が積み上がっている。屋根に雪が重く積もった老朽化した空き家の倒壊も今年は異常に多らしく、「こんな年は珍しいですよ」と運転手さん。当地に来て、「圧雪アイスバーン」という単語を覚えました。よく見ると、道路の上に10センチくらい雪が圧せられて層をなして、それが特に夕方から夜にかけてアイスバーンのようになる。それを地元の人達は「圧雪アイスバーン」と呼んでいて、マスコミ用語にもなっている。日曜日の夜に食事を終えて外に出たら、地元の人が空中に浮かぶようにすっころんでいるのを見ました。「地元とか関係ないです。足を置いた場所が悪いと誰でも滑ります」とタクシー運転手。わたしはまだ滑ってない。

土曜日の朝に無事飛んだJALで帯広に入って、その日の夕方に列車で札幌経由により旭川に移動する予定でしたが、JR北海道が起こした列車事故でそれが無理になり、結局4時間弱かけて帯広から旭川まで車移動しました。最初はなることやらと思ったのですが、現地の人達は皆雪道での運転がうまい。また良く知られているように、雪道での事故は車が滑るために大きなものにならないケースが多い。実際に、雪道ではスピードは出せないし、出していない。まあ大丈夫でした。むしろ、どえらく広い富良野の大地を車で走れて良かった。富良野って、本当に大きいんですよ。

寒い代わりに、冬の北海道は東京にはない食材が楽しめる。これは良かった。月曜日の夕方に関西に移動します。皆さんには良い一週間をお過ごし下さい。

《当「ニュース」は住信基礎研究所主席研究員の伊藤 (E-mail ycaster@gol.com) の相場見解を記したものであり、住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータは各種の情報源から入手したものです。正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》